

迎春



第107号

事業団だより

発行
社会福祉法人
千葉県社会福祉事業団
<http://www.cfj.or.jp/>

皆様には、平成三十年の新しい年を一つがなくお迎えのこととお祝い申し上げます。

また、旧年中も皆様からたくさんのお指導とご助言、そして励ましの言葉をいただきました。

心より御礼申し上げます。

事業団は、平成三十年度から五カ年の千葉県袖ヶ浦福祉センターの指定管理者として決定をいただき、引き続きの運営を任せられました。

事件以降、毎年祈念の日々を重ね、改革改善に努めてきましたが、この決定に対しては多くの方々から様々なご意見をいただいていることも確かです。

昨年、創立五十周年の節目を迎え、基調報告の中で「時代と共に事業団の役割は明らかに変わってきたのであり、求められる社会の様々なニーズに対応出来ないこと、私達の支援が誰の為、何の為に実践するか、目指すべきところを明確にして実践する」、その日々の実践こそ、意見を寄せられた方々への誠実な答え方であり、信頼を取り戻す唯一の

年頭挨拶

方法であると信じています。

取り組みねばならない課題は未だ数多くありますが、第六次千葉県障害者計画の目指す「障害のある人が地域でその人らしく暮らせる共生社会の構築」に寄与できるよう、事業者としての信頼を少しでも取り戻すことが出来るよう、更なる努力を重ねてまいります。

関係各位には、一層のご支援御指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 千葉県社会福祉事業団

理事長 相馬 伸男
事務局長 鈴木 隆浩

千葉県袖ヶ浦福祉センター

更生園施設長 古川 茂
養育園施設長 渡邊 泰之
診療室長 相馬 伸男

ながうら地域支援センター
児童サービスセンター

所長 渡邊 真紀

委員会紹介



研修委員会



今年度の研修委員会は、「権利擁護・虐待防止研修」「専門研修」「階層別研修」「祈念研修」を大きな柱として、年間を通じて研修を開催しています。

まず、「権利擁護・虐待防止研修」では年2回、淑徳大学副学長の山口光治様にアンガーマネジメントについて講師をお願い致しました。各事業所の支援員や看護師等、様々な業種の職員がグループに分かれ、意見交換をしながら「怒りのコントロール」について学びました。

「専門研修」では、十月五日ホテルポートプラザにて「認知症セミナー」を主催し、他事業所の皆様にも多数ご参加頂きました。

「階層別研修」では、今年度採用の職員・一〜三年目の職員・四〜六年目の職員を対象に、「障がい特性の理解と向き合い方」や「陥りやすい支援とリスク管理」等について、幹部職員が講師となり、自らの失敗談を交えながら、和やかな雰囲気で行われました。

また、平成二十五年に起きた虐待死亡事件の命日に当たる十一月二十六日に、「故人の冥福を祈ると共に、「祈念講演」



を開催しました。愛知教育大学名誉教授の増田樹郎様の講義と、職員との意見交換を実施し、事業団全員で日頃の支援について、改めて考える場となりました。

その他に、近隣施設での体験研修や、特別支援学校と連携した交換研修等を実施し、自己研鑽を積むと共に、法人全体として成長して行きたいと考えています。

委員長 今井 一仁

知的障がい児・者支援サービス基礎講座(医療編)

千葉県社会福祉事業団では行動障がい児・者の方、重度の知的障がいがあり加齢に伴う介護の必要性が高くなっていく方の支援に取り組んでいます。今回、口腔機能に関する支援サービスの資質向上を目的として知的障がい児・者支援サービス基礎講座(医療編)を開催します。

対象参加者 : 県内知的障がい児・者の福祉に関わる施設・事業所職員等(100名程度)

開催期日 : 平成30年2月8日(木) 13:30~15:00 (13:00受付開始)

参加費 : 無料

会場 : 千葉県袖ヶ浦福祉センター 2階ホール

内容 : 「障がい児・者における口腔機能へのアプローチ」 歯科医師 竹蓋 奈徳氏

問い合わせ先: 千葉県社会福祉事業団 診療室(担当: 石井, 今井) 0438-62-2746

※締切日2月1日(木)以降も、申込みを承りますので、お問い合わせください。

各事業所の行事などは、ホームページに掲載しています!!



広報委員会としての大きな仕事は、年に二回発行の事業団だよりです。この事業団だよりは、構成やデザインまで全て広報委員会で作成しているため、十一月の会議から、どのような内容、構成にするのかを話し合います。

委員で決めたことが形となり、皆様に情報発信ができた時、改めて広報業務の重要性や、やりがいを感じます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

委員長 佐藤 駿

理念、倫理綱領、行動規範を

改正しました。



改正前の理念等は、平成十三年に制定されたもので、時代も変わり障害のある方への支援の理念や方法、考え方も変わりました。また、これまでの行動規範は「してはいけないこと」の否定型の規範であり、私達がこれから創り出す支援の支えとなるような魅力的なものではありませんでした。私達を支え、勇気づけてくれる理念・倫理綱領・行動規範となるよう改めました。理念と倫理綱領をご紹介します。

事務局 黒川 正喜

更生園 保護者会

保護者の皆様に、施設内のペンキ塗りや園庭の植栽・除草を手伝って頂いています。

保護者会に「一緒にペンキを塗りませんか」と声をかけたところ、保護者様からは快諾を頂き、研修会などの行事のたびに保護者、職員、時に県職員も一緒に壁の塗装作業を続けてきました。

また、園庭の植栽と除草についても、季節の花が一年を通し、美しく管理して頂いたことで利用者様の目を楽しませるだけではなく、来園された方々にも喜ばれる環境を提供することが出来ました。

利用者様の生活がこれからも豊かなものとなるよう、これからも保護者様と一緒に活動を続けていきたいと思えます。

更生園 斉藤 美之



養育園 児童ミーティング

生活を送る中で、子ども達の意向を尊重した取り組みとして、児童ミーティングを開催しています。主に食事、健康面や余暇について意見交換が行われています。専門的な立場から、食事の面では栄養士が参加し食事のメニューの検討や食事に関する企画。健康面では、看護師が参加し日常必要な健康に関する勉強会。余暇については、外出等の意見交換を行い、子ども達の生活に反映しています。

一月には、食事の面で栄養士と子ども達が意見交換しながら、トッピングお汁粉作り企画しました。当日は、お汁粉に沢山の果物やアイスをのせて、大きな口を開けてお汁粉を頬張る子ども達で、大賑わいでした。

今後も、児童ミーティングを介して、子ども達の意見を取り込みながら、より良い生活が送れるように努めていきたいと思えます。

養育園 岩撫 暢江



理念

私達は、様々な障がいのある方々が抱える暮らしにくさや困り感が少しでもなくなり、自由で豊かな暮らしができること、一人ひとりが笑顔の溢れ出る暮らしができることを目指し、必要な支援サービスを提供していきます。

そして、ここで出会い、共に暮らす時が、それぞれの人生にとってかけがえのないものとなり、新たな人生への扉を開くことのできる時となるよう、一緒に考え、寄り添い続けます。

倫理綱領

- 1 笑顔忘れずに
笑顔が溢れる暮らしができることを目指します。
- 2 気づきを大切に
些細なことにも気づきを大切に、一人ひとりの視点にたって支援します。
- 3 全力で支え合い
ここでの生活が、一人ひとりの人生にとってかけがえのないものとなるように 支援員、看護師や栄養士、事務員など全ての職種で支えます。
- 4 互いに信じ合い
コミュニケーションを大切にして、様々な方との信頼関係を構築します。
- 5 美しく
あいさつ、支援の姿勢、整容、行い、環境、全てにおいて美しく。

利用者様の立場にたった

サービスの提供を目指して



平成二十九年七月より、念願の温冷配膳車が導入となりました。以前は常温での提供方法でしたので、利用者様に温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食事提供ができるよう、色々と思考錯誤をしてみました。

各食堂での温め直し等の工夫を続けてきましたが、温冷配膳車が導入され、食事が劇的に変化しました。

一番に良かったと感じたことは、ホカホカ温かく、炊きたてのようなご飯を提供することができたことです。その他にも、ラーメン、うどん、そばなどは、やけどしない程度に熱々に提供することができ、今までより美味しく召し上がっていただけているのではないかと思います。

導入当初は、温かい食事に戸惑う利用者様もいましたが、温度の変化も感じていただき、夏は涼しく、冬は温かくなるような食事を、これからも提供していきます。

栄養士 山口 亜弓

千葉県社会福祉事業団の 取り組みをご紹介します！



認知症研究チームを

立ち上げました。



当事業団では、一昨年度から認知症研究チームを立ち上げて、様々な活動を行っております。

チームを発足したきっかけは、理事長との食事の席でした。

「認知症とダウン症の関連について、研究してみない？」とお誘いを受け、突然のこと、よくわからないまま「はい！」と返事をして引き受けました。

早速、次の日に理事長から、「認知症の知的障害者」という国立のぞみの園が発行している論文をいただき、これは本格的に活動しなければいけないと思い、必死で論文を読んだことが今ではとても懐かしく感じます。

今年度の活動内容は、千葉県知的障害者福祉協会に加入する障害者支援施設を対象とした認知症実態調査の実施や、岡山県の社会福祉法人 旭川荘や、群馬県の国立のぞみの園から講師をお招きして「認知症セミナー」を開催しました。

セミナー終了後には、お問い合わせのあった施設や特別養護老人ホームの見学、君津圏域多職種症例勉強会の参加など、活動の幅を更に広げることができました。

ちょっとしたきっかけから発足した研究チームでしたが、研究を通して、たくさんの方々と出逢い、支えていただきながら一歩ずつ進むことができました。心より感謝申し上げます。

認知症研究チーム

粕谷明博、富弥拓二、佐藤駿

